

令和6年度第2回一関市スポーツ推進審議会 会議録

- 1 会議名 令和6年度第2回一関市スポーツ推進審議会
- 2 開催日時 令和7年3月19日（水）午前10時から午前11時30分まで
- 3 開催場所 一関市役所 大会議室
- 4 出席者
 - (1) 委員 伊藤成子委員、及川加奈子委員、及川圭二委員、小野寺勝委員、小幡和夫委員、亀谷キイ子委員、佐々木賢治委員、須藤光子委員、平野和彦委員、佐藤和江委員、千葉京子委員、千葉美幸委員
※欠席者 伊藤政友委員、菊池正人委員、熊谷道仁委員、萩田進委員、藤原洋委員、奥玉真一委員、沼倉恵子委員、渡邊和貴委員
 - (2) 事務局 小野寺愛人まちづくり推進部長、平石剛スポーツ振興課長、小野寺孝良スポーツ振興課長補佐兼スポーツ施設係長、濱井大輔スポーツ振興課スポーツ交流係長、藤代由香里スポーツ振興課主任主事

5 議 題

- (1) 一関市スポーツ推進計画に基づく令和6年度実施状況について
- (2) 一関市民のスポーツ活動に関するアンケート調査の結果について
- (3) 令和7年度スポーツ団体に対する補助金の交付について

6 公開、非公開の別 公開

7 傍聴者の数 なし

8 小野寺愛人まちづくり推進部長挨拶

本日は、お忙しい中、一関市スポーツ推進審議会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。委員の皆様には、日頃から当市のスポーツの推進に対し、多大なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

このスポーツ推進審議会は、国の法律であるスポーツ基本法の規定に基づき、条例により設置しているものであります。皆様にはそれぞれのお立場から本市のスポーツ振興のため、活発なご意見をいただきますようお願いいたします。

当市の市民をはじめとするスポーツ選手の活躍についてですが、一関学院高等学校陸上部の全国高等学校駅伝競走大会への出場、一関修紅高等学校男子バレーボール部の春の高校バレーへの出場、当市出身で花巻南高校3年の及川愉女さんがU18女子ソフトボール日本代表に選出され、ワールドカップ予選リーグへの出場、また、一関第二高等学校出身で現在、日本大学4年の菊地心和選手が1月に

ブルガリアで開催された、フェンシングワールドカップ女子サーブル団体に日本代表として出場し、見事金メダルを獲得、サッカーでは萩荘出身の岩渕弘人さんがJ1リーグのファジアーノ岡山に所属し活躍、バスケットボールではBリーグでは萩荘中出身の小野寺祥太さん、桜町中出身の菅原暉さん、磐井中出身の佐藤涼成さん、の3名が活躍されております。スノーボード競技では東山出身の岩渕麗楽さんがオリンピック2大会連続出場や、現在も行われているワールドカップでの活躍など、多くの市出身選手がトップリーグ等で活躍されております。

市といたしましても国内外で活躍する一関市出身選手の今後益々の活躍を応援してまいりたいと考えております。

本日の案件につきましては、一関市スポーツ推進計画に基づく令和6年度の各施策の実施状況、市民のスポーツ活動に関するアンケート調査の結果、また令和7年度のスポーツ団体に対する補助金の交付について説明を申し上げますので、委員の皆様方から、忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

9 協議内容

(1) 一関市スポーツ推進計画に基づく令和6年度実施状況について

資料に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 資料の「4 県民体育大会等への出場に対する支援」の選手遠征費の助成について、選手は出場に当たりユニフォームなどの費用もかかると思うが、補助の対象はどのようなになっているのか。

事務局 県民体育大会出場の補助金は、参加料と宿泊費、交通費のみが対象になっており、ユニフォーム等の用具代は対象外となっている。

委員 チームスポーツにおいては、参加する要件を満たすために人数を集めなければいけないという大きなハードルがある。ユニフォームについては、市の代表として県民体育大会に参加するわけなので、多少の助成があってもいいと思う。

事務局 意見として承る。

委員 資料「一関市スポーツ推進計画の達成度を図る指標」の「合宿促進補助金の交付団体数」について、どのような種目の団体がどのような施設を利用しているか教えていただきたい。

事務局 令和6年度の実施団体について、バレーボール競技で6団体が一関修紅高等学校と合同練習を図るなど交流しながらの合宿を実施した。バトミントン競技は3回実施した。健康の森に宿泊し同施設の体育館を利用

した。硬式野球は2団体が実施した。花夢パルに宿泊し、隣接する野球場を利用した。この他に花夢パルでは青森県の大学野球部の合宿が予定されている。

委員 一関修紅高等学校との合宿については、一関修紅高等学校の合宿所があるのか。

事務局 一関修紅高等学校の体育館と市内の体育館を使いながら合同で合宿をしていると伺っている。宿泊先は、東横インや旅苑松本となっている。

委員 基本施策2の「子どものスポーツ活動機会の充実」の主な施策「市内学校関係機関等との連携」について、令和7年度計画に学校部活動の地域移行について連携体制を構築し協議を進めるという記載があるが、現在、一関市内の学校の部活動が地域に正式に移行したという数ほどのくらいか。また、全国的な動きで、学校部活動の地域移行は一関市も積極的に推進していかなければならないと思うので、働きかけを継続的にお願いしたい。

次に基本施策1の「競技力の向上」の全国大会等出場に対する支援について、全国体育大会等出場シニア応援金は新しい取組であり、シニアの方たちも多くの方がスポーツに取り組んでいる印象があるので、毎年度継続していただければ、シニアの人たちのやる気、励みという意味にもなるのではないかと考えている。

また、主な施策6の「指導者育成に対する支援」について、一関市体育協会と連携して指導者資格取得更新を補助し、指導者の養成確保を支すると記載がある。参考程度だが指導者の資格でスタートコーチというのがあり、スポーツ少年団や中学校の部活を指導している方が、スタートコーチの資格を取得したという話を聞いている。全国中学校体育大会については、予選も県大会もスタートコーチがベンチ入りできるが、全国大会については、スタートコーチがベンチ入りすることは許されない。あくまでも日本スポーツ協会でないとはベンチ入りできないと聞いている。一関市でも、スポーツ少年団をはじめ全国大会に出場に出場しているチームなどがあるが、その辺りも踏まえて日本スポーツ協会の公認資格指導者についての取組を積極的に働きかけ、資格取得に対する支援などにより資格者を増やすことも考えていかなければならないと思う。

基本目標2「スポーツ施設の利用促進」について、去年の8月頃に東北大会規模の高校バスケットボールの大会が東山総合体育館で開催された。

ある高校の先生から「体育館に冷房がないのか。」と話されたと聞いている。一関市の主要な施設で、冷房があるのは一関市総合体育館だけではないか。既存の施設に冷暖房を付けるとなるとコストがかかることは十分承知しているが、別種目の団体からも話が出ている。一関市総合体育館以外の体育館で東北規模以上の大会を開催するような施設について空調設備の整備を考えていく必要があると思う。

事務局 当市での大規模大会は、過去にインターハイや国民スポーツ大会が開催された。空調設備がないという話があったが、平成28年の岩手国体前には冷暖房設備を整備している。一関市総合体育館については、建設当初から冷暖房完備の施設である。東山総合体育館については建設当初は暖房しかない体育館であったが、その後冷房も整備しており、東北規模の大会を開催するような主要施設については現状、冷暖房ともに備わっている。今後は大規模大会という部分もあるが異常気象というところも踏まえながら施設の整備等については検討していきたい。

部活動の地域移行について説明する。当初は教育委員会を主体に学校部活動から地域部活動への移行が進められていた。令和6年度現在は当市では150の部活動があるが、令和6年度地域部活動に移行したものが47団体で、全部活動に占める割合は約31.3%となっている。令和7年度に地域移行を予定している団体は18団体ある。これは全国的な取組であり、当初令和5年から令和7年までの3年を移行期間としていたが、全国的に難航している部分もあり、昨年12月に国の有識者会議で中間取りまとめが発表され、令和8年度以降は6年間の改革実行期間が設けられた。当市ではこれまで教育委員会が主体となり、関係者やスポーツ団体等に対し年に数回懇談会を開催しているが、今後は関係者による検討会若しくは協議会の設立を検討している。スポーツ分野を担う一関市体育協会や、文化芸術分野を担う一関市芸術文化協会の方々にもご協力いただくことを想定している。引き続き教育委員会と連携しながらどのような方向が望ましいか検討していく。

全国体育大会等出場シニア応援金について、これまでは児童生徒を対象に、競技力向上を目的とした補助金があったが、生涯にわたるスポーツ活動に対して応援していく観点からシニア応援金を創設した。当面は市のスポーツ振興を進めていくために、継続していきたいと考えている。続いて指導者育成公認資格の件だが、先ほど申し上げた部活動地域移行に関して、

新しい資格を持った指導者の方が必要となることから一関市体育協会や各競技協会とも連携をしながら、指導者の充実支援、育成活動を進めていきたいと考えている。

委員 シニア応援金の話があったが、対象者は国民スポーツ大会のみなのか。それとも様々な大会が対象になるのか。

事務局 想定している大会は、アマチュアの大会で非営利の大会とし、スポーツについては日本スポーツ協会又は同法人の加盟団体が主催する大会と考えている。先ほど国民スポーツ大会という話があったが、県など他団体から補助が出る大会については、対象外になる。

委員 バウンドテニスをしており、全国大会にも出場しているが、これも対象となるのか。

事務局 他の団体から補助が出ていなければ対象となりうる。

委員 部活動の地域移行について、サッカー協会では底辺の拡大ということで、誰でもどこでもすぐできるのがサッカーだと考えており、サッカー教室は幼稚園、保育園などで実施している。小学生は学年によって実力差があるため、年代別に分けて大会を開催している。また、お母さん方を中心に、応援だけではなく、サッカーそのものに携わっていただきたい、理解していただきたいということで、レディース大会も開催している。現状、中学校単独でチームを作れないということは、大会にも出られないし、小さいときからずっとスポーツをやってきたのに中学校に行くことができなくなることになる。地域のクラブに入るという考えもあるが、地域のクラブとなると保護者の負担が増える。現在はほとんどの学校で単独チームを作れないということで、合同で出場している学校も多くある。現在は地域でクラブを作って、中学校の大会にも出られるように変えるという動きがある。とても前向きな話に聞こえるが、1つの学校で生徒が足りないのに加え、今後優秀な選手がクラブチームに入ってしまうとますます学校チームの人数が足りなくなる。また、そのようなクラブチームが中学校の大会に出場するとなれば、実力差が出てくると考えられる。そもそも部活動というのは、本来は文武両道を目的とした、子供の成長には欠かせない学校の行事だったと思う。安易に地域移行をすればいいという考えではないということをご理解いただきたい。

観光的な観点から考えると、スポーツの全国大会やその他大きな大会の開催は本当にありがたいと思っている。

合宿促進補助金の交付団体数について、まだ目標数値には達しておらず、現状は60%から70%ということである。他市町村での合宿実施の特典や設備などについて比較しながら、一生懸命取組みを実施してきたと思うがなかなか目標達成ができない。その差をどのように理解していて、どのようにして目標達成に向かっていこうとしているのか。

事務局 部活動の地域移行について、今年度各地域の関係者から地域移行に関わる現状や課題を聞いたところである。様々な課題が出ており、課題を整理しながら進めていく。一番大事なのは子供が主役ということであり、やはり子供たちの体験格差をなくすことが必要だと考える。これまで学校部活動というのは教育的な部分が大きかった。そういった教育的な意味を継承しながら、地域で子供たちを育てていく環境作りをしたいと考えている。地域クラブになったとしても、行政・学校・地域が連携したスポーツ環境の提供が必要だと思う。教育委員会と連携をしながらあるべき地域クラブ活動の姿を、市民の皆様を示したいと考えている。

また、観光の観点からのスポーツということだが、市内で大きな大会を開催することにより、参加者が宿泊や市内観光が増えることにつながると考えている。近年は各種目団体、競技協会などが主催しFリーグ（フットサル）、Wリーグ（バスケットボール）、Vリーグ（バレーボール）も開催されている。今後もトップリーグ等の試合の開催が継続できるよう、競技協会と連携しながら受け入れやすいような形を検討していきたい。合宿誘致については、首都圏で開催している説明会に参加して、首都圏の団体に周知している。しかし、目標数値まで4割ほど足りていない現状である。合宿に対する補助制度については、他自治体でも実施しているところもあり、その中で一関市がどう差別化するのが大事である。当市に引き込むに当たり、練習環境などのハード面が足りないのか、観光分野などと連携した取組などのソフト面が足りないのか、などのニーズの把握が現状できていない。当市が選ばれる合宿地として、魅力を発信することや、取組を企画することなど、そのようなことを今後検討して、数値について高めていきたいと考えている。

委員 合宿の令和6年度実施状況について説明があったが、陸上競技だと花夢パルに早稲田大学や他の学校も来ていると聞いているが実績には反映されていない。どのように登録すれば、実績に反映されるのか。また、合宿誘致については人との繋がりが大事になると思う。一関修紅高等学校の合宿

も繋がりがあって実施されていると思うので各種目や指導者の方、各チームとの繋がりといいものが大事だと思う。また、市民の多くは新聞等のメディアを通じて情報を得ることが多いことから地元メディアも活用し情報発信をすれば、さらに数値的に発展すると思う。

(2) 一関市民のスポーツ活動に関するアンケート調査の結果について

資料に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 問7の「あなたは、スポーツを主にどこで行っていますか」という設問に対し、「自宅およびその周辺」という回答が50.1%と半数であった。前回の審議会でも話したが、廃校になった小学校等の施設が今は全部閉鎖になっている。計画的に、また安全を確保しながら、既存の体育館を地域住民の方が利用できるようにご尽力いただきたい。予算が足りない場合は、クラウドファンディングなどの制度も検討いただければと思う。花泉地域ではどこかの小学校の体育館を残してほしいという署名活動も行う予定としており、是非とも検討を進めてほしい。花泉地域以外でも、特に体育館の保存をお願いしたい。

事務局 意見・要望として承る。

(3) 令和7年度スポーツ団体に対する補助金の交付について

資料に基づき、事務局から説明を行った。以下質疑応答等。

委員 補助金額は前年同額であるのか。

事務局 その通りである。

(4) その他

事務局から次期一関市スポーツ推進計画の策定について及び新たな地域クラブ活動の在り方に係る懇談会等についての今後のスケジュールについて情報提供をした。質疑等無し。

9 担当課 まちづくり推進部スポーツ振興課